学校だより

１１月号
令和４年１０月２６日
横浜市立洋光台第四小学校

～　手をとりあい　ぐんぐんのびる　しんめの子　～

ホームページもご覧ください。www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai4

多様な性への理解を目指して

人権担当　高田茂行

秋も深まり、すっかり日が短くなりました。今週末にはいよいよ運動会があります。現在、各学年で当日に向けて最後の仕上げに取り組んでいます。ぜひ、お子さんのがんばっている姿を見にいらしてください。

さて、みなさんは、LGBTQ（性的マイノリティ（少数者））という言葉を最近はよく耳にすると思います。L は Lesbian（レズビアン；女性同性愛者）、G は Gay（ゲイ；男性同性愛者）、B は Bisexual（バイセクシュアル；両性愛者）、T は Transgender（トランスジェンダー；生まれた時の性とは違う性を生きる人、Q は Questioning（クエスチョニング；自分の性がはっきりしない人）または、Queer（クィア；LGBT のどれにもあてはまらない）です。近年、LGBTQ に関するニュースや情報に触れる機会が増えてきました。しかし、実際に LGBTQ を身近に感じている人はそれほど多くはないでしょう

LGBTQ に該当する人は、調査機関・調査方法によってデータにバラつきがありますが、現在では日本の人口の約１０％が LGBTQ であると言われています。これは成人を対象とした調査結果ですが、３５人学級にあてはめると、LGBTQ にかかわる児童が１クラスに平均２～３人いる計算になります。LGBTQ の子どもたちは、生きづらさを感じ、一人で思い悩んでいる可能性が考えられます。また、いじめやからかいの対象になりやすいことも考えられ、学校などでの正しい理解が求められています。

また、LGBTQ の方々の中にも、体の性と心の性との違いに悩んだり、周囲の偏見や差別に苦しんだりしている人が多く存在しています。性は多様で、いろいろな性があってよいのだという捉え方が必要です。最近の社会では多様な性が認められ、ありのままの自分の性で生きられるような暮らしやすい環境づくりがすすめられてきています。もちろん学校でも、さまざまな違いを個性ととらえ、認め合うことの必要性を積極的に発信しながら、LGBTQ への理解を促進するための人権意識の啓発に努めていかなければなりません。

人間は一人ひとり違います。身体も心も考え方もそれぞれ違います。それは当たり前なことです。それを互いに認め合い、尊重し合うこと、それが「多様性」です。だれもが同じ「型」に押し込められて、居心地悪く生活するよりも、一人ひとりが違う、それぞれの個性を生かしながらのびのびと生活していく方がずっとよいことだと思います。

本校では、多様な性に対応した教育を推進してきています。また、学校管理職をはじめ校内教職員が共通理解を図ったうえで、連携しながらどの子も安心して過ごせる環境を整えることも大切にしています。これからも、多様な性を認め合い、尊重することのできる学校づくり、学級づくりを行ってまいります。保護者の皆様方の変わらぬご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。